

地域の意見に基づくエコツーリズム戦略の見直しの視点

1. 「エコツー検討会議の進め方について」のヒアリングについて

- ・2022年12月から2023年1月の期間において10の関係団体へ対面にて実施
- ・2022年第2回検討会議において事務局から結果概要を口頭で報告済み。

項目区分	ヒアリング結果	見直しの方針 (案)
知床半島全体の利用について	<ul style="list-style-type: none"> ・保護と利用の長期的目標やビジョンを含めて世界遺産管理計画とエコツー戦略との関係性をしっかりすべきで、地域としてのビジョンは提示済み ・ゾーニングイメージ案は公園管理計画等に反映されると聞いた記憶がある ・知床半島将来ビジョンを数年の議論を経て作ったため、ポールは環境省サイドにあるはず ・地域のビジョンを各管理計画に反映させ、その運用を利用調整地区制度等によって担保すべき ・公園計画の見直し議論とも一体的に進めるべき ・知床全体の保護と利用に関する骨格・大方針を明確にすることが先決 ・過去は保護寄りの声が大きかったが、海難事故後は同じようにいくはずはなく、近場の魅力的なフィールドの再発見を観光地の多様化の一環として重視したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料4-2を参照 ・検討会議で議論の上、エコツー戦略に反映 ・IP全体計画の議論を部会・検討会議で進め、その要素をエコツー戦略に書き込む。
戦略の 実行体制について	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略及び提案制度は他公園のモデルになり得る一方で、10年が経過し課題も明らかになりつつある ・承認プロセスが明文化されていないため、利用が無制限に進む懸念 ・専門家は助言者という位置づけがよい ・専門家が助言のみの立場であるなら、事業者はそれを反映せずに実施することもできるのか ・事業主体になることを譲り合っている状況に見える ・提案が出ないなら中間にコンサル、ワークショップ、座談会、勉強会等をかませるは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・検討会議で議論の上、事務取扱要領に反映 ・検討会議設置要綱に反映済み

	<p>提案者の負担感</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・提案者は民間であり、有識者から法律等の指摘を受けると対応が困難 ・両町が提案を受け付けた時点で関係団体との調整等のサポートが必要 ・実施部会の検討期間は期間や期限をしっかりと切らないと維持が大変である ・構成員が幅広く、特に私益と公益がぶつかる場合などは負担が大きく、財政・事務的援助が必要 ・委員による指摘に対しては回答を用意するのは当然である ・協議会として知識だけでなく資金も提供できるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・検討会議で議論の上、事務取扱要領に反映
	<p>提案の範囲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法的担保がないため、多方面からのチェックは必要である ・賛否が分かれそうな提案は会議にかける等の基準があるとよい ・提案内容に自由度がある反面、全体のルールづくりから個別課題まで幅が広いと負担大 ・とんでもない提案が出てこないように大方針を決めてもらいたい ・行政が議論したいルールを持ち込み、構成員間で話し合う場所として利用したらどうか ・カムイワッカのように状況報告に留める方法であれば楽 ・カムイワッカは実施部会を飛び越して個別部会になったように見える 	<ul style="list-style-type: none"> ・検討会議で議論の上、エコツー戦略や事務取扱要領に反映
	<p>承認のメリット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設立当初は既存ルールの突破口やアイデアを持ち込む場所として期待が高かった ・遺産 AB 地区の見直しにつながるとよい ・承認のメリットは公的なお墨付きを得ることで、対外的にも説明ができるようになる ・承認を得ることの利点が、承認後のモニタリング等の負担より大きいなら提案者は出てくる ・会議体が財源を持ち、その用途を提案で決めるなどできると真剣な議論が進む 	<ul style="list-style-type: none"> ・検討会議で議論の上、エコツー戦略や事務取扱要領に反映
<p>その他</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・設立当初は会議中でも構成員間で横の議論が見られた ・会議に出席している事業者間での交流等を通じ、何をやっているか知ることに意味はあるだろう ・委員も事務局も現地を見に来てから話すべき 	

2. 「エコツー戦略及び検討会議の見直し」に関するエコツー事業者向けヒアリングについて
- ・2023 年 10 月から 11 月の期間において、知床国立公園をフィールドとする 46 の観光事業者に対してメール送付及び対面にて実施。19 事業者から回答を得た。
 - ・今回は設問 6 「意見、要望」のうち、戦略の見直しに関連する意見をまとめた。

項目区分	ヒアリング結果	見直しの方針 (案)
国立公園・世界遺産の管理・運営	<ul style="list-style-type: none"> ・利用のゾーニング ・ルシャ、知床岬への船による上陸 ・先端部地区の動力船上陸禁止の継続 ・観光船スタッフの船内トーク向上のためにルシャへの車での立入をしたい。年に 1 度でも直接確認することでガイドブックには無い情報を乗客に提供でき、満足度向上につなげたい。 ・外国人のドライバー兼ガイドがレンタカーで顧客を乗せ、北海道を周遊する形の長期ツアー等が散見される。地元ガイドの利用など一定の規制を設けることで地域還元の仕組みを構築したい。 ・公園に限定したエリアでの議論が、公園外の悪質な行為を見逃す原因になっている。禁止行為は、保護区に影響のある場所についても管理できるようにすべき。エコツー戦略と異なり、自然公園法では公園利用に限定した制限しかできていない。 ・事前の意見集約の場が少なすぎる ・知床は自然環境が厳しく、バックカントリーへの入込み数が増えれば遭難や事故もそれだけ増える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 4-2 を参照 ・IP 全体計画の議論を部会・検討会議で進め、その要素をエコツー戦略に書き込む。
新しいサービスや活動の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド含めアウトドアでの活動は基本的に自己責任ということを広く周知し概念を根付かせ、欧米のようにある程度自由に公園内を活用できるようにしてほしい。 ・一般の人が先端部を見る機会を作れないか。見てもらうことにより何のために規制しているか理解をもらえるのでは？ ・ルシャでの野生動物ウォッチング、各種教育プログラム ・ウトロ海域でのホエールウォッチング ・新しいトレイル整備 ・新制度を導入した陸域ヒグマウォッチングツアー ・カムイワッカ新制度において、クレジット払いに加えて BtoB 向け請求書払いも取り入れて欲しい。 ・知床横断道路の積雪期の利用ルールの検討 ・3 月初旬から横断道路と周辺の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・IP 全体計画の議論を部会・検討会議で進め、その要素をエコツー戦略に書き込む。

<p>公園利用に関する障壁や課題感</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・知床＝クマ。クマは知床にとって大きな観光資源と同時に非常に危険な動物である。クマは教育できないので人間教育（啓蒙）活動をもっとすること。（クマを安全に見られる場所を作る等） ・ポンホロ沼の遊歩道が廃道になったのは残念。再会して欲しい。 ・ヒグマ管理全般、観光客に対する安全管理の情報提供 ・公園内の表示、看板などの意匠に統一感がない。多言語標識が少なく、特に登山道。 ・阿寒などはトレイルをどんどん増やせているが知床はハードルがひとつひとつ高い。 ・利用するルールを厳格化した上で利用を促進してほしい。 ・知床峠を通年利用できるように開通して欲しい（トンネル可）。 ・町外事業者に対する参入障壁。 ・行政の足並みが揃っていない ・林道の通行止め ・ウトロ／羅臼間の移動手段が、特にインバウンド層にとってハードルが高い。知床を面的に見せていくため、積極的な情報提供や移動手段の構築が重要。 ・五湖厳冬期ツアーの実施計画を、前年のうちに認めて欲しい。 ・シーカヤック、SUP 利用者が航路を通り危険な場合がある。 ・先端部の釣り人、瀬渡し、定置網漁との関係 ・インバウンド対応のための人材確保、育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ IP 全体計画の議論を部会・検討会議で進め、その要素をエコツー戦略に書き込む。
<p>提案制度に期待すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民間からの企画、提案から実施にいたるまで時間がかかりすぎるし、それに対するエネルギーが膨大である。 ・承認に時間がかかりすぎるように思える。提案されたことに対して早く結論を出して、現状と合わない不都合が出た場合は途中で修正して動かすようにすれば。 ・これまでは商品造成の提案になってしまっている感があったが、それ以前の基本的なインフラ整備に関して検討できる場にならないか。 ・日本のこれまでの慣習に囚われすぎず、世界の動きを意識した、流動性のある利用機会の検討をお願いします。 ・エコツー推進法で出ていた白タク行為を条件付で認めて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討会議で議論の上、エコツー戦略や事務取扱要領に反映

3. エコツーリズム戦略見直しに関する今後の進め方（案）

(1) 2023 年度 エコツー検討会議において意見交換（本日）

(2) 2024 年度以降 適正利用・エコツーリズム部会及び検討会議で継続的に議論

(3) 部会及び検討会議にて最終案を確認後、改定完了